


東京都退職校長会



会報

発行所 **東京都退職校長会**
 発行者 **角田 美枝子**

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 鈴木日退連共同ビル5F
 電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://totaikou.jp/>

【はじめに】
 新春を寿ぎ謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本年も、コロナ前の活力ある活動の復活と、一層魅力ある取り組みを図ってまいります。一月には、四年ぶりに新年会を開催いたします。

【役職定年制と入会のお誘い】
 令和五年十月の支部長会では、東京都教育庁人事部 勤労課長 石毛朋充様にお願ひして、「定年引上げ及び役職定年制」についてご説明をいただきました。令和五年



活力と魅力ある東京都退職校長会に入会のお誘い
 東京都退職校長会会長 **角田 美枝子**

度に六十歳の誕生日を迎える管理職の方は、令和六年度からは原則として管理職以外の職に異動（降任）し、特例的に六十一歳以降も管理職として任用するそうです。

そこで本会は、今年度末に六十歳で役職定年を迎える園長・校長の皆様全員に、入会をお勧めいたします。

それに伴い、令和六年一月の支部長会に会則の一部改正を提案し、総会に代わる承認へと進める予定です。

【待望の七十周年記念誌発刊】

創立七十周年記念誌が、伊地敦子委員長を中心とする記念誌作成委員会と桐谷澄男運営推進本部長のご尽力で発刊されました。昭和二十八年創立以来の歴史と、会員の皆様の本会に寄せる熱い思いが記されています。この記念誌が、いつまでもお手元にあつて、本会の魅力を感じ取っていただけたら幸いです。

記念誌は全会員の皆様と、幼・小・中・高・特別支援学校、一貫校、義務教育学校の、現職の園長、

校長の皆様全員に配布いたしました。配布に際して、各支部の支部長、役員の皆様のお力をお借りできましたことに、心よりお礼申し上げます。

【会員研修会 盛会裏に終了】

十一月の会員研修会当日は、午前中の秋驟雨から一転、雨が上がり、参加される方々が東大赤門前に集って、予定通りに始まりました。

文京区の公認観光ガイドの説明を受けながら、三四郎池等をめぐり、無縁坂を下って旧岩崎邸庭園

を見学し、参加された皆様の満足感が伝わってくる午後のひと時でした。

生涯学習部の一丸となった取り組みに感謝しております。

【終わりに】

総会以来、本会の課題解決に向け支部と本部とが一体となった取り組みが着実に歩みを進めていることに感謝申し上げます。

龍の水を得る如く、会員の皆様にとりまして活躍の場が広がり、幸多い一年になりますよう、お祈り申し上げます。

主な記事

- | | |
|-----------------|---------------|
| P1 巻頭言 会長挨拶 | ジ委員会、臨時的任用教 |
| P2 関東甲信越地区大会報告 | 員募集記事、支部日より |
| 第2回会員研修会報告 | P5 新入会員の声 |
| P3 「教職員の65歳定年制、 | P6 秋の叙勲 |
| 役職定年制について」 | 高齢者叙勲受章会員 |
| 創立70周年委員会 | P7 クラブ紹介 |
| P4 教育研究プロジェクト | P8 物故者、応募コーナー |
| チーム、会員増強プロジェクト | 編集後記 |
| チーム、ホームページ | |

令和五年度第五十二回関東甲信越地区
退職校長会連絡協議会「千葉大会」の概要報告

令和五年度全国連合退職校長
会第五十二回関東甲信越地区退
職校長会連絡協議会「千葉大
会」が、十月二十六日・二十七

日、千葉県千葉市のホテルポー
トプラザちばにおいて開催さ
れました。本会から角田美枝子
会長・福島良樹副会長・赤坂寅
夫副会長の三名の参加に加え、
千葉県以外から二十四名、開催
県の千葉県からは二十四名が参
加しました。

今回の研究協議会は「退職校
長会の存在感を高める活動を広
げるにはどうしたらよいか―
『魅力ある会』の構築を目指し
て―」です。協議会に迫るため
に、各都県から以下の四つの共
通課題に対する取り組みについ
て情報提供がされました。

- ①教育現場や教育関係団体等との交流や支援活動
- ②役員と一般会員との意識の差や会員の年代別意識の差を埋めていく工夫

③福利厚生事業、生きがいを持
てる活動の工夫

④会員相互の交流を図る広報活
動

時間の関係から四つの共通課
題の中から特に重点としている
課題について、各都県が発表し
、それについて他の県から質問を
し、意見交換をするという形式
で協議が進められました。

本会は、①の課題を中心に、
教育研究プロジェクトチームに
より学校や地域社会の教育に寄
与する研究を取りまとめること
と、会員相
互の交流を
図る支部間
交流の活性
化を今年度
の重点とし
ていること
等を説明し
ました。

(総務部担当副会長 赤坂寅夫)



第二回会員研修会報告

令和五年度第二回会員研修会
は、名所散策を要望する声に応
え、初の屋外研修となりました。
十一月十七日(金)の当日はあ
いにく朝からの雨模様。しかし、
会員の気持ちを通じたのか午後
一時半の集合時刻には雨も上が
り、角田会長を始め二十六名が
参加。文京区ふるさと歴史館の
ガイドさんの説明を受けながら
赤門く東大キャンパスく無縁坂
く旧岩崎邸のコースを約三時間
半かけて散策しました。

今年十月まで暑さが続いた
ため、银杏の黄葉には少し早
かったものの、見事な大木の並
木を見上げつつ、構内にある由
緒ある建物や我が国の学問発展
に貢献した偉人たちの銅像など
を見て廻ると、改めて帝国大学
時代からの東大の歴史と伝統の
重みを実感させられました。(他
にも日本初の人工衛星「大隅」
の実物大模型なども置かれてい
ます。)

有名な安田講堂の前で休憩と
集合写真を撮った後、三四郎池
の脇から東大病院の前を通って
無縁坂を下り、旧岩崎邸庭園へ。
岩崎邸の入り口にある银杏の大
木は黄葉も見事で、英国人コン
ドルによって設計され、岩崎家
の迎賓館として用いられた西洋
館、併設された和館などの重厚
な施設に、三菱財閥を創り上げ
た明治期の岩崎一族の貫禄を体
感させられました。



(生涯学習部 松澤茂久)

教職員の65歳定年制、役職定年制について

標記の題は本会の会員も強く関心を寄せている制度改正である。これについて理解を深めようと、去る10月19日（木）の支部長会で学習会の時間を設定し都教委からの説明を受けた。はじめに角田美枝子会長の依頼を快諾された都教委へのお礼と講師紹介があり40分の学習会に入る。以下に概要を紹介。

講師 東京都教育庁人事部
勤労課長 石毛朋充氏
企画推進担当課長 毛利元一氏

〈石毛勤労課長の説明〉

①制度改正の経緯

国は定年引き上げに関わって令和3年6月に地方公務員法の改正を行った。施行は令和5年4月1日。

それを受けて、東京都は「職員の定年等に関する条例」等の条例や規則を改正し公立学校の教育職員を含む職員の定年を2年に1歳ずつ、60歳から段階的に引き上げていくことになった。令和5年4月から施行に入り、最終的には令和13年に定年65歳制が完成する。

②役職定年制

(1)この制度の趣旨は、「組織の新陳代謝を確保し、組織活力

を維持するため、管理職（学校では校長・副校長）は、60歳に達した日から後の、最初の4月1日までに原則として管理職以外の職に異動（降任）することとする」である。役職定年による降任先は原則として非管理職の最上位となるため、ポストがあれば主幹教諭への降任となり、イメージとしては主任教諭への降任となる。

(2)給料月額、管理職・非管理職とも、60歳前の7割水準に設定される。いわゆる「7割措置」である。

(3)このため管理職は「降任」と「7割措置」で二重に給料が引き下げられるので降任後も役職定年による降任前に受けていた給料月額の7割が確保されるよう、降任前の給料月額の7割と降任後の7割との差額を役職定年調整額として支給する。

③役職定年制の例外(特例任用)

(1)役職定年制で管理職が非管理職に降任することで、公務の運営に著しい支障が生ずる場合、引き続き管理職として勤務させることが可能となる。いわゆる、異動可能型特例任用である。管理職として継続

勤務できるのは最長5年間（1年単位で期間を延長）。

(2)「公務運営に著しい支障」とは、「出先事業所や専門性の高いポスト等で、当該職員の降任により当該ポストに生ずる欠員を容易に補充することが出来ず、業務の遂行に障害を生ずる場合」を指す。

(3)教育管理職の新陳代謝や校長・副校長の需給バランスを考慮の上、60歳以降も引き続き校長・副校長として勤務することに同意していただける方の中から、人事評価等に基づいて適任者の判定を行い、特例任用する。

〈質疑(紙数の関係で2問のみ掲載)〉

Q 「61歳定年した校長は定年後も長として4年間はできるのですか。」

A 「令和6年4月以降、本人が校長をしたい、と言っていただけの場合は暫定再任用の選考を受けて、通過できれば校長として勤務出来る。」

Q 「65歳以降はどうなるのですか。」

A 「この制度が完成した時は定年の年齢は65歳になるのですが、65歳以降については国による制度設計もまだのため不明です。」

(広報部 副部長 梅津通郎)

見事に咲いた花― 七十年よ輝け 本会よ輝け

運営推進本部長 桐谷澄男

「素敵だったわ、打ち上げ会とか「とてもよい打ち上げ会でしたよ」と、私たち会員自身が自画自賛できる声で令和5年10月16日に最後の会を終えることができた。

改めて、七十周年の式典や関連の諸会合等の歩みを一人静かに振り返る自分がいたのだ。

見事に花は咲いたと振り返る。式典委員長の多田前会長以下、花の下で役員、委員だけでなく、本会々員全てが「七十年よ輝け、本会よ輝け」とばかりに、快哉を叫んだ、と考える。

「組織の意思を未来に繋げ皆で祝う七十周年」(テーマ)「心をつなぐ 繋ごう未来へ」(スローガン)が、テーマやスローガンで終わってはいなかった。

つまり、堂々のワンチームで有り得た。最後の「打ち上げの会」で実証されたことを、ここに総括し、報告する。

アンケート調査について

教育研究プロジェクトチーム
委員長 草野一紀

前回の会報220号と一緒に配りしたアンケートについて、すでに回答をされた方も多いためです。

今学校は、山積する課題の解決に向け、校長をはじめ教員の負担は増加する一方です。教員の志望者も減少し、欠員も生じているのが現状です。精神を病んでいる教員や不登校の児童・生徒が増えていることから考えれば、学校は、危機的な状況にあると言えるのではないのでしょうか。今すべきことは、教員の負担を減らすことだと思います。学校支援スタッフの配置もすでに始まっていますが、私たち退職校長会が関われることは何かを考え、都や区市の行政と連携し、組織として学校を支援していきたいと考えています。

一人でも多くの人が入会することを願って！

会員増強プロジェクトチーム
委員長 壺内 明

会員の皆様と学校との現状での関わりを知ることは、そのためにも必要と考えています。まだ回答がお済みでない方は、どうか協力をお願いいたします。

今井前委員長から引き継ぎ桐谷、関本、荒木、三原、北村、岩谷、落合、篠崎、石毛、壺内の委員10名で各支部長会と一体になって勧誘活動に全力投球。

今年の主な活動は、①幼・小・中・高・特支の事務局を訪問し各校種の退職データ収集。②退職予定者（役職定年予定者）のリスト作成。③再任用退職者・早期退職者のリスト作成。④退職5年後の未加入者のリスト作成。⑤7月に再度退職者（役職定年者）の未加入者への勧誘リスト作成。⑥勧誘通知文や退職校長会の活動内容作成。⑦支部長会で43支部に情報提供。

黒手帳と睨めっこしながらの名前と住所などのデータ作成は難行苦行の連続である。年々会員減少が続き、危機意識をもって会員増強に全力を注ぎたい。皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願いしたい。

ホームページ委員会

委員長 福島良樹

ホームページの作成・公開・削除は、会長、役員2名、事務局長の4名からなるホームページ委員会を中心に審議を行い、その作業は、本部内の情報推進部が担当します。今般、ホームページの公開・

削除に関して、セキュリティやプライバシーポリシーの問題を大切にしていくな観点から支部長会に於いて公開依頼書の提出を求める説明をさせていただきました。ご理解をお願いいたします。

さて、今後のホームページですが、ウォーキングや名所旧跡を訪ねる等々、支部間交流を一層図れる魅力あるホームページの公開に向け鋭意努力をしていく覚悟です、皆様のさらなるご協力やご支援を賜りたくお願いいたします。

「臨時的任用教員」の先生を募集中

人事部職員課長 徳田哲吉

産休・育業等の教員の代替として学校で働く臨時的任用教員を募集しております。

まずは選考を受けて頂き、選考に合格すると名簿に登載されます。その後学校での面接を経て、採用となります。

詳細は「東京都 臨時的任用教員」で検索いただくか、都教育委員会のHPをご覧ください。（採用情報から教員系職員 の箇所をご覧ください。）

支部だより

ひろばと会員のお便り集

港支部長 野々山 毅

港支部は現在、正会員3名、特別会員28名で活動しています。支部の活動は、総会と支部便りによって行っています。支部便りは4月、7月、9月、1月の年4回送ります。

港区教育委員会事務局の発行の「ひろば」は、浦田幹男教育長様のご厚意で年3回支部便りと共に送らせていただいています。これによって、区内の学校の様子や郷土歴史館、みなと科学館の催し物などが分かり、会員の方々から喜ばれています。7月は「会員のお便り集」を送ります。今年度は24名の方々から原稿をいただきました。ご家族との楽しい交流や生きがい、新しい体験や学びの喜び、「ひろば」からの新校舎落成を祝う声など、力をもらっています。

通常の活動に戻って

墨田支部長 加藤 明紀夫

四年ぶりに総会・懇談会が開催できました。会場の都合で、平日になったため出席者が少なかったけれども、区長・議長・教育長・小中の校長会長が出席して下さり、感謝しております。会員募集にあたり、区内在住・在勤の退職校長に、活動の様子、総会資料、規約など送付しましたが全く反応がありません。唯一親交のあった後輩の校長が入会活動に協力してくれています。

九月に「会誌四十九号」を発行しました。会員五十二名の内八割の四十名が寄稿してくれました。会誌は会員相互の交流の場であり、会員としての証でもあります。原稿締切を再度延長して、多くの会員の声を集めています。

三月に「一日研修会」を予定しています。今年はどこにいくのか楽しみです。

支部研修会について

北多摩西部支部長 萩原 敏文

本支部では、全員研修会を年に二回行っております。今年度の一回目は、11月17日(金)都の研修会に便乗して行いました。参加者は3名おりました。2時間かかったの参加でしたが、支部長として大変嬉しく思いました。数年前、日野、八王子の研修会への参加者も同程度の参加でした。高齢化が原因と思われる。今年度の二回目の研修会は会員による講演会を行います。支部代表者会の後半からの実施ですので参加人数も多いと思われます。

来年度は、散策会、工場見学会、講演会等、副支部長の立案により代表者会で承認決定しております。

以前は、本支部も会員が200名近く居りましたが、現在は60名程度になりました。立川・国立・東大和・武蔵村山・昭島から1名ずつ役員が出て会務を行っております。研修会参加者減も含めて、会員減は都退職校長会の大きな課題です。

新入会員の声

教師の原点

江東支部 福田 洋一

令和四年度末に定年を迎え、退職しました。体調が万全ではなく、健康面に不安があったため再任用を断念し、現在は区の会計年度任用職員として週二十時間、子どもたちに算数を教えています。

凶工専科として二年間、学級担任として十四年間の経験があるとは言え、十八年ぶりの教科指導：。「ちゃんと授業ができるのだろうか。」という所属の校長や同僚の心配(?)を他所に、本人はというと元気いっぱいな子どもたちを前に、毎日楽しく職務に励んでいます。

校長職は退きましたが、校長も現職もその職責の重さは同じです。これからも目の前の子供たちの健やかな成長のため、力を尽くしたいと思います。

よろしくお願ひいたします

荒川支部 稲葉 裕之

令和五年三月に定年退職を迎えました。現在、北区に在住しておりますが、大先輩で荒川支部長である桜庭清徳先生からお誘いいただき、荒川支部に入会させていただきました。

私は、昭和六十年に荒川区立第四中学校に着任、板橋区、北区と教員生活を送り、その後、副校長昇任の際、再び荒川区立第四中学校に着任しました。以来十六年間、荒川区にお世話になり、定年を初任校である第四中学校で迎えさせていただきましたこと、たいへん感謝しております。この四月より再任用校長として同区尾久八幡中学校に着任いたしました。これからは、その年ごとにできることを取り組んでいきたいと思ひます。今後とも、よろしくお願ひいたします。

令和5年 秋の叙勲受章会員

栄えの受章お祝い申し上げます。(敬称略)

瑞宝小綬章 (3名)	瑞宝双光章 (7名)	佐藤 輝雄 (葛 飾)
町田 静隆 (板 橋)	宮崎 和敏 (江 東)	井上 正 (八王子)
北村 透 (足 立)	河西 堯夫 (渋 谷)	小澤 宏 (府 中)
鈴木 敏郎 (埼玉県)	林 瑠美子 (渋 谷)	浅沼 洋 (三宅島)

(福利厚生部担当副会長 増田 稔)

高齢者叙勲受章会員

栄えの受章お祝い申し上げます。(敬称略)

(令和5年11月10日現在 本部に届けがあった方々)

瑞宝双光章 (9名)		
工藤 清治 (荒 川)	稲川 君江 (千葉西部)	三村恵四郎 (神奈川県)
櫻井 義孝 (練 馬)	浜岡 忠彦 (埼玉県)	高橋 雄 (神奈川県)
沼尾 敏之 (西多摩)	清水 和夫 (埼玉県)	近藤 忠美 (地方・宮城県)

(福利厚生部担当副会長 増田 稔)



ご希望のご予算に合わせて お葬式が執り行えます

東京都退職校長会会員の皆様へ

東京都民互助会は、東京都退職校長会 会員福利厚生の一環として
昭和51年4月より団体契約によるお葬式サービスを提供しております。
会員ご本人様はもとより、ご家族ご親戚の方々もご利用いただけます。

365日24時間 いつでも 迅速対応



0120-849-544

直葬・家族葬はもちろん ご弔問の多いお葬式まで承ります

Well Life ウェルライフグループ

東京都民互助会 平安祭典

ホームページ



本社:東京都杉並区上荻3-15-17 営業本部:東京都練馬区北町5-18-15 3階 TEL03-3396-7231

◆◆◆ クラブ紹介 ◆◆◆

園芸クラブ
委員長 天野 正忠

園芸クラブは、山野草・盆栽・プランター菜園：等多岐な植物好きの者の集まりです。コロナ禍もあり今は活動が低調ですが、やがて発芽して大きく育つ事を願っています。入会歓迎です！

囲碁クラブ
委員長 佐々木和廣

囲碁の別称に、爛柯・坐隠・手談・橘中の楽・君子のたしなみなどいろいろあり、囲碁を見事に表し、なるほどと思わせます。
一緒に囲碁を楽しみませんか？

写真クラブ (TKC)
委員長 甲野 恵美

撮影、研究、懇親を三本柱として季節ごとの撮影会6回、作品展2回、作品研究会を実施しています。

現在会員は50名。撮影は頭と足を使い老化防止に繋がり、90歳代の会員も元気に楽しんでいます。

東京の東部、湘南地域、横浜、千葉地区等地域の活動も行っています。

絵画クラブ・水墨画
委員長 関口 修司

本会は、毎月(8月を除く)、駒込文化創造館を会場に、会員数8名(7月現在)で、担当者と画題を

決めて活動を続けています。墨の濃淡、滲みを楽しむ、ひと時をご一緒に過ごしませんか。

ソフトテニスクラブ
委員長 石原 容子

場所は杉並区立松の木中学校となりの松の木テニスコート。時間は13時もしくは15時スタートで2時間。参加者は少ないですが、楽しくやっています。お時間が合えばいらしていただくと嬉しいです。

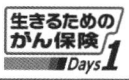
釣りクラブ・千代田会
委員長 町田 静隆

私たちは「釣り」を趣味として海の景色で心の洗濯も兼ねて毎月一回船釣りに出ています。シロギス、アジなど釣りやすい魚種を選んで釣行しています。

短歌クラブ・メダカ
委員長 岩井 昭

コロナ禍のために休部していましたが、世の中の動きにならない活動を再開したいと思えます。とにかく、作歌への情熱を人生に表現しましょう。ご連絡下さい。

クラブへの入会をお考えの方は、連絡先を事務局までお問い合わせください。



がんと向き合う人を支える基本のがん保険

＜生きるためのがん保険Days1＞入院給付金日額 5,000円		オリジナルプラン	月払保険料例 個別取扱 左記プランの場合 解約払戻金なしタイプ 保険料払込期間：終身/定額タイプ 特定保険料払込免除特約なし																					
診断給付金	初めて「がん」「上皮内新生物」と診断確定されたとき	がん・上皮内新生物それぞれ1回限り 50万円 5万円																						
入院給付金	「がん」「上皮内新生物」の治療を目的とする入院をしたとき	①日数無制限 ②通院期間中(365日以内)日数無制限 1日につき 5,000円																						
通院給付金	「がん」「上皮内新生物」の治療を目的とする次のいずれかの通院をしたとき ①特定の治療(*1)のための通院 ②初めて診断確定をされた日、所定の治療(*1)を受けた日、または退院日の翌日から365日以内の通院	1日につき 5,000円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>男性</th> <th>女性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>60歳</td><td>3,440円</td><td>2,080円</td></tr> <tr><td>65歳</td><td>4,110円</td><td>2,330円</td></tr> <tr><td>70歳</td><td>4,750円</td><td>2,580円</td></tr> <tr><td>75歳</td><td>5,375円</td><td>2,855円</td></tr> <tr><td>80歳</td><td>6,000円</td><td>3,185円</td></tr> <tr><td>85歳</td><td>6,695円</td><td>3,615円</td></tr> </tbody> </table>	年齢	男性	女性	60歳	3,440円	2,080円	65歳	4,110円	2,330円	70歳	4,750円	2,580円	75歳	5,375円	2,855円	80歳	6,000円	3,185円	85歳	6,695円	3,615円
年齢	男性	女性																						
60歳	3,440円	2,080円																						
65歳	4,110円	2,330円																						
70歳	4,750円	2,580円																						
75歳	5,375円	2,855円																						
80歳	6,000円	3,185円																						
85歳	6,695円	3,615円																						

・保障の開始まで所定の待ち期間(保障されない期間)があります。
 (*1)所定の治療とは、手術・放射線治療(電磁波温熱療法を含む)・抗がん剤治療(経口投与を除く)・ホルモン剤治療(経口投与を除く)をいいます。
 ・ご契約の際には、「契約概要」「注意喚起情報」「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
 ・個人情報利用目的：アフラック等各種商品やサービスの案内・提供・維持管理に利用します。詳しくは弊社HPをご参照ください。

保険料は、2023年4月現在のものです。
 ※健康状態によっては、記載の保険料と異なる場合があります。(保険料が割増となる場合があります)。お申込み後にアフラックから送付する書面をご確認ください。

資料請求・お問い合わせ・お申込みは
(平日 9:00～20:00 土日祝 9:00～17:00)

☎ 0120-357-212 (引受保険会社)

三井住友トラスト・ライフパートナーズ
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

「生きる」を創る。アフラック
東京第一法人営業部
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル19F
Tel.03-6367-3666 Fax.03-3218-3887

AF003-2023-0274 5月2日 (240502)

(令和5年10月10日 届出現在)

氏名	年月日	支部名	校種	年齢	簿頁
鈴木 宏	5・8・17	北	高	91	18
井関 登晴	5・8・12	神奈川県	小	92	70
木部 廣雄	5・8・3	大田	小	94	9
延藤 君雄	5・7・31	府中	高	87	47
坂本 秀雄	5・7・30	足立	小	89	24
藤井 清	5・7・17	北多摩中部	小	89	44
真壁 繁樹	5・7・10	北多摩西部	小	76	49
河西 芳	5・7・7	北多摩中部	小	89	45
大田美智彦	5・6・2	調布	中	92	48
平山 平	5・4・20	豊島	小	98	17
武智 恒雄	5・4・13	神奈川県	中	89	70
富田 洋子	5・3・11	府中	小	88	46
橋本 徹	5・3・5	埼玉県	小	78	68
入野邦義	4・11・30	埼玉県	中	89	73
加藤 節夫	4・11・12	練馬	小	92	22
廣瀬 智子	4・9・11	八王子	小	89	30
佐藤 松寿	3・11・9	神奈川県	小	90	70

物故者

謹んでご逝去を悼み
ご冥福をお祈り申し上げます



吉田千鶴子	5・8・19	葛飾	小	89	26
小野満禎子	5・8・19	武蔵野三鷹	高	82	40
並木 巧光	5・8・25	西多摩	中	86	51
島田 泰介	5・8・27	神奈川県	小	94	72
池場 望	5・8・29	府中	中	89	46
手塚宇三郎	5・8・31	埼玉県	小	89	65
佐藤 儀一	5・9・3	埼玉県	小	90	65
土方 順蔵	5・9・4	西多摩	小	96	51
高橋 貞子	5・9・5	北	小	78	18
村川 昭博	5・9・8	埼玉県	中	91	66
伊野 泰一	5・9・10	北多摩中部	小	88	45
小池角次郎	5・9・12	神奈川県	中	88	72
佐治 恒孝	5・9・17	神奈川県	高	76	69
金子 政雄	5・10・2	世田谷	中	92	11

※頁は令和4年度発行の新名簿による

(福利厚生部担当副会長 増田 稔)

【東京都教職員物故者追悼式】

令和五年十月三十日に多磨霊園で執り行われた第六十七回「東京都教職員物故者追悼式」に参列いたしました。本会元会長の片岡敦子先生のご遺族を代表して追悼の言葉を述べられました。(会長 角田美枝子)

応募コーナー

俳句

寄稿 江東支部俳句の会

「四葉句楽部」

羽根突きの音も懐かし枕元
木枯らしや胸元押さえ家路就く

萩 次雄

新品の肩掛けかばんお正月
マフラーをなびかせ急ぐ家路かな

鈴木正孝

年越しの蕎麦打つ父の赤ら顔
紅梅に目白のつがい見え隠れ

佐藤正広

カメラ持つ視界遮る寒雀
日脚伸び床のソファーに眼を落とす

野村文章

寒のうち陽射しを求め隣室へ
青空を掴むがごとし梅が枝

加村隆治

短歌

今はただ遠き昭和の懐かしさ
吾が人生に良き師よき友

踏まれても折られても芽を出す土筆んぼ
己に克つ心生さる支えに

人生は和して同せず旅心
嘗ての師友を心に刻み

千葉南部支部 大久保明夫

突然の雷雨襲いて子どもらが
鋭き声あげ校舎にとび込む

どしゃぶりの道をかけゆく男児らの
後追いかけて泥水はねる

中野支部 田中弘志

編集後記

世界から戦争や紛争が一日も早く無くなることを願いつつ今年初の会報作成のさなか、能登半島地震が発生しました。尊い命を亡くされました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

本号には、支部長会の学習会で都教委が話された「教職員の定年引上げ制と役職定年制」の内容が報告されています。本会の組織づくりにも関わる重要な制度ですので、しっかり理解していきたいと思えます。

また、第二回会員研修会の報告が載っています。初の屋外研修と言う言葉に魅かれて私も参加しました。ガイドさんの説明を聞きながら三四郎池を眺め、小説「雁」の舞台となった無縁坂を下るうちに、若い頃に読んだ夏目漱石や森鷗外の世界が蘇ってきました。他支部の会員の方々と短い時間でしたが親しく言葉を交わせたことも大きな収穫でした。

「分かりやすく、より魅力ある会報」を目指そうと広報部員一同、心を新たにしています。ぜひ会報へのご意見、ご感想をお寄せ下さい。(西田 敦子)